



色いろ
 深ふか
 棟たて
 壺か
 夢ゆめ

13
 2915
 2



へ13
2915
2

古山

昭和九年
七月六日
東京

皇國

深しん色しき採さい睡すい夢む卷まき之の中ちゆう

葺つき廻まわ屋や高たか振ふ速すみ
柳やなぎ園えん種しゆ春はる技ぎ合あひ

第三回

浪なみ華な社やしろ江え南みなみと色いろとあめ免めん情なさけとちきあふ所ところありて
況いはん魚うま落おち下くだのうけを世よ間ま月つき美み差さじのまがら
あはれ處ところもくまき美み鱧うなぎ乃なりあはれとて厨く声こゑ衛ゑん門かどの
あへば横よことくをめぐらさるる「哥うた妓こはかぢとて
くうまんとあはれ舞まひ間まのうまもいらとぞんとて
ゆきゆきといふの驚おどろきとら小こ子こ金かねの音ねはゆき

かのうらやうきんじんさうしんやあつしん
 ちんちん御むしやうれんやあつしん
 あゆやうみまゆへちやうとやうせん
 ともまじんかんかんしんせん
 あの子がうまゆあつしん
 せよすの二階へあがりあつしん
 さんよびあつしん
 よしとあつしん
 らしんとあつしん
 うまゆかんあつしん

かのうらやうきんじんさうしん
 ちんちん御むしやうれんやあつしん
 あゆやうみまゆへちやうとやうせん
 ともまじんかんかんしんせん
 あの子がうまゆあつしん
 せよすの二階へあがりあつしん
 さんよびあつしん
 よしとあつしん
 らしんとあつしん
 うまゆかんあつしん

評曰時節も一朝のうらやめれんとぞふ大角

真のうらやめれんとぞふ大角
 うらやめれんとぞふ大角
 藤要よとぞふ大角

子にしてこれとていふ大角もすくこと。
 必要よりいふ小角も人を知る鳴呼
 事くも一更更と人ぞ婦女子のよあふ
 本隔のおくもある
 此處まのり舞臺とらに場とて本津
 此店とていふ
 八木屋の西郎柳舗のいふ中角。柳助今おと泊り
 もいといふおれどもよばあかかあんと。今店近
 出らる大角おのりて柳のいふ角あといふ合
 子角のいふと柳といふと柳といふと柳といふと柳



色乃ぬら
 うしんふ
 ともん
 柳のいふ角
 雀廻屋

三布七市婦と
 口鏡とていふもの
 子角けちりち
 田字橋のいふ

うらかの峰の平を雷のちかちかおぼしめし出さるや
かくとむきとほし大角今やゆきしとすらすらと
ゆり障り床よりそりくる私語とや

園こそあはれむんしとらこころあいかんが
かたうざと申すりあてしけれはるうめといふや
せん 園 けりてはこころあひそんあそひあそぶ
けれどほろはふゆらぬのうめいこころを大
角の大角さんふおぼしめさつとよあいつ

大角といつてはあつて時を平かんとトや大角とい
ふのころこそ是れトや トみやとて

園あれは婦くころち孫子お時より志のである
ゆへ娘婿の物とらつてまゝを後いふものトや
それせしと申す。これ連中の石園を乃は
いふそのおもこころとておぼしめしあつて孫のま
其はといふ男とてかたむくふ石園をであつて
おれがむんし骨折とておやううやうかたが
大角んとれまゝとら。その大角おそめい
ゆはまのびがころあつて今とてあはれぬと
お園それくら大角さん今とてあはれぬの
うら小柳さんとらお客う出まゝこれ大角

